

【理事会議事録】

日 時：2006年6月24日(土)11:00--16:40

場 所：国立天文台(三鷹)南研1階大会議室

出席者：祖父江，井上，黒田，花岡，北本，関井，蜂巢，百瀬，田，成相，浅田

有効委任状提出者：杉山，和田，馬場，富田

欠席者：なし

その他，吉川ジュニアセッション実行委員会委員長，東條事務長が出席した。

議 長：祖父江義明

署名人：花岡庸一郎，北本俊二

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

前回(2006年3月27日)の理事会議事録が報告され，原案通り承認された。

2. 今年の秋季年会について

浅田理事より今年の秋季年会の準備状況について，西日本産業貿易コンベンション協会による助成が決定したこと，講演会についてはポスターやチラシの作成などについても準備が進んでいること，の報告があった。なお最近特にホスト側の大きな負担となっている懇親会について，負担軽減の一助となる試みとして，参加申し込み受付を事前の電子メールでの受付と初日のみの現地受付という形で行う。また田理事より秋季年会時の天文教育フォーラムについて，「天文学系の学部を志望する大学入学者の現状」というタイトルで開催予定であり，江里口氏・福江氏に講演を依頼している旨の報告があった。また，その後の年会について花岡理事より，2008年秋までの開催地及び担当者が決定していること，2009年春は大阪府立大が候補となっていること，の報告があった。

議 題

1. 新入会員の承認(資料2)

資料に基づき新入会員の紹介があり，入会を承認した。合わせて退会者の報告があった。

2. 新役員候補者(資料3)

3. 新選挙管理委員候補者(資料4)

4. 新委員会委員候補者(資料5)

以上3点は2007～2008年度を任期とする役員・委員の候補であり，これらについて議論した結果，原案について一部訂正や現委員長に再確認する点はあったが，承認して評議員会に諮ることとなった。

5. 2007年度事業計画書案(資料6)

花岡理事より2007年度の事業計画書案について説明があり，質疑応答の後一部修正の上承認した。

6. 2007年度収支予算書案(資料7)

北本理事より2007年度の収支予算書案について説明があり，質疑応答の後承認した。

7. Asian-Pacific Journal アンケート結果について(資料8)

祖父江理事長より，新たに刊行が提案されている Asian-Pacific Journal (AsPJ) についての天文学会としての姿勢を決定する上で会員の意見を求めるために行ったアンケートの結果の紹介がされた。PASJを維持するという回答が80%にちか一方，AsPJについても天文学会が一切不参加との意見は少数であった。この結果に基づき，天文学会はPASJを維持することはAsPJ側へ明確に伝える，一方引き続き学会としてオブザーバーをAsPJの委員会に送る，ということとなった。AsPJに加わるとしている他の各国の情勢も流動的であるので，IAU総会で予定されている議論などを注視していく。なお，7月中には会員にもアンケートの結果を報告する。一方，PASJを維持する方向が明確になったので，秋に予定されているPASJ編集委員会に合わせてジャーナルワーキンググループ・編集顧問も集まり，今後の発展へ向けてまとまった議論を行うこととした。

8. 男女共同参画「小委員会」の設置について(資料9)

黒田副理事長より、現在組織されている男女共同参画についてのワーキンググループを小委員会に昇格させる提案があった。現在ワーキンググループでは、男女共同参画学協会連絡会の運営委員会等に参加している他、女子高校生向けに理科系学部・研究者の活動を紹介するイベントなどへの参加をおこなっている。ただ、ワーキンググループという形では学会内外から活動が見えにくいいため、天文学に女性が参加しやすくすることを活動の主体とする小委員会に組織し直し、その活動をより明確に示すことができるようにしたい、との趣旨である。議論の結果小委員会を「男女共同参画委員会」として設置することとし、またこの委員会設置のための内規案を評議員会に諮ることになった。評議員会で承認されれば直ちに発足の予定である。

9. 新入会員の資格について(資料10)

花岡理事より、入会申請は理事会でその可否を決定しているが、正会員についてはその基準をより明確にするため入会案内を「天文学に関して大学卒業程度の専門の学識を有する方、または天文学・天体観測に一定の経験のある方を対象としています」というような文言を加えて改訂したい、との提案があった。方針は承認し、具体的な文章についてはさらに練ることとなった。

10. 科研費審査委員候補者(研究者情報の提供)の選考方法

科研費審査委員については制度変更により学会からの推薦を行わなくなっていたが、今年からその候補者リストを学術振興会に提出するという形で再び学会から推薦できるようになった。今年はじめの締め切りには学会での選考を進める間がなく出せなかったが、是非学会から推薦を出すようにとの要望も出されており、対応を議論した。その結果、次回については、以前学会からの推薦を行っていたときと同様の理事・評議員の投票による候補者の選考とともに、他の要因も考慮して最終候補者リストを作成することになった。

11. 秋季総会議題等(資料11)

秋季総会議題等の案について若干の修正の提案も含めて承認し、評議員会に諮ることとなった。

12. 民間賞の推薦について

祖父江理事長より、学会として推薦委員会を作って積極的に会員を民間賞候補として推薦してはどうか、との提案を理事長宛に受けていることについて説明があった。現在理事長・副理事長で推薦依頼に対応しているが、評議員からも推薦委員を選んではどうか、自薦も受け付けるなど普段から候補者を把握しておいてはどうか、学会に直接依頼が来ないものについても積極的に推薦するようにできないか、等の意見が出された。より積極的に学会からの推薦を出せるよう理事長・副理事長でさらに検討し、評議員会にも諮ることとした。

13. その他

(1) 学会ロゴについて

前回の評議員会での学会ロゴを作る方向で検討してはどうかとの意向を受け、具体的にどのように進めるかを議論した。まず製作するとなるとどのような方法があるのか、予算はどのくらいになるのか、などについて会計を中心に前例も含めて調査することとなった。

(2) ジュニアセッションの現状と問題点(資料13)

特に出席をお願いした吉川ジュニアセッション実行委員会委員長を交え、ジュニアセッションに関して問題点や将来の方向についての議論を行った。まず吉川委員長より資料に基づいてジュニアセッションの経緯や現状についての報告があった。全体として大変盛況であり好ましいが、発表のレベルが高くなってきていて初めて発表をしようという生徒にとってしきいが高い印象を与えかねないこと、発表数も増加しており発表時間が少なくなっているがパラレルセッションや複数日開催への変更は現実的ではないこと、現在は行っていない審査や表彰についても希望する声があること、旅費は通常生徒の個人負担であったが現在は高校によっては旅費を公費で工面できるところもあるなど差が出てきていること、開催について学会側世話人の負担が大きいこと、などの問題の指摘がされた。これらについては、審査など学会として差はつけることは好ましくない、また運動部の試合と同等に扱われるよう参加校宛に学会として参加の証明を出してはどうか、旅費については何らかのスポンサーから得られないか、運営は本

来高校側が主体となるべきではないのか、などの発言があった。今回の議論を踏まえ、また今後のジュニアセッションの状況を見つつ、引き続き検討を行っていくこととなった。

(3) PASJ委託先(資料14)

蜂巢理事より、来年以降のPASJの組版・印刷を委託する費用に関して複数社から得た見積もりについて説明がされた。候補となる会社の実力等も勘案して実際の発注先を決めたいとのことである。

(4) 早川基金の支給方法

北本理事より、早川基金選考委員会からの支給方法等の変更の提案について説明があった。現在行っている半額援助は内規に反するのではないか、内規で渡航費のみの援助となっているが滞在費や参加費も援助できたほうがよいのではないか、との意見があるため、内規の改定により自由度を高めたいとのことである。選考委員会により具体的な提案をしてもらい、さらに議論を進めることとなった。なお、応募者は昨年減ったもののこれは一時的で、今年はむしろ多くなりそうである、との報告もされた。

(5) 次回以降の日程

次回は秋季年会中に開催、次々回は2007年1月13日(土)に開催とする。

2006年7月8日

議長 祖父江義明

署名人 花岡庸一郎

署名人 北本 俊二